

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】平成19年8月30日(2007.8.30)

【公表番号】特表2007-500116(P2007-500116A)

【公表日】平成19年1月11日(2007.1.11)

【年通号数】公開・登録公報2007-001

【出願番号】特願2006-521578(P2006-521578)

【国際特許分類】

C 01 F 11/02 (2006.01)

【F I】

C 01 F 11/02 A

【手続補正書】

【提出日】平成19年7月3日(2007.7.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

固体物質からなる粒子を有していて、それらの粒子が、懸濁液となす前に、BET法により計算したときに $10 \text{ m}^2 / \text{g}$ よりも小さいかもしくそれに等しい比表面積を有している、カルシウム-マグネシウム含有水性懸濁液。

【請求項2】

前記粒子が、BET法により計算したときに、 $8 \text{ m}^2 / \text{g}$ よりも小さいかもしくそれに等しい比表面積を有している、請求項1に記載の懸濁液。

【請求項3】

前記固体物質の粒子が、次式：

【化1】



(上式において、 $0 < x \leq 1$ 及び $y \leq (1-x)$ であり、そして x 及び y は、モル分率である)により表される、請求項1又は2に記載の懸濁液。

【請求項4】

1.2Pa.s よりも小さいかもしくはそれに等しい動的粘度を有している、請求項1~3のいずれか1項に記載の懸濁液。

【請求項5】

25% よりも大きい固体分含量を有している、請求項1~4のいずれか1項に記載の懸濁液。

【請求項6】

20ミクロンよりも小さい d_{98} 粒度分布寸法を有している、請求項1~5のいずれか1項に記載の懸濁液。

【請求項7】

BET法により計算したときに $10 \text{ m}^2 / \text{g}$ よりも小さいかもしくそれに等しい比表面

積を有している粒子を含むカルシウム・マグネシウム含有固形物質を水性媒体中に投入し、懸濁させることを含む、請求項1～6のいずれか1項に記載のカルシウム・マグネシウム含有水性懸濁液を調製する方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

【表6】

第6表

低い比表面積を有する消石灰をベースとした石灰乳の経時安定性。

石灰乳	比表面積 [m ² /g]	粒度分布特性 [μm]			初期粘度 [Pa. s]	48時間後 の粘度 [Pa. s]	固形分 含量
		d ₅₀	d ₉₀	d ₉₈			
1	5	4	50	130	1.15	1.15	45%
2	5	3	10	18	1.00	1.10	39%
3	5	1.6	3	5	1.20	1.15	34%